

皆さんは富士山憲章をご承知でしょうか。

- 1 富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 1 富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 1 富士山の自然環境への負荷を減らし、人との共生を図ろう。
- 1 富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 1 富士山の自然、景観、歴史、文化を後生に末永く継承しよう。

昭和10年11月18日 静岡・山梨県

### 富士山、その命名・由来 伝説に彩られた神秘的な山

「富士山」は「三国一の山」とも称せられる。それは何も今に限ったことではない。日本のみならず唐・天竺に至る迄、富士山がその容姿端麗、女神の如くに美しい姿と持っていること、そして、時に峻厳として人を拒絶する厳しさを持つ荒ぶる山としての一面をも併せ持ち、更には近隣の山々を圧倒して屹立している様が、三国一と称せられる所以であらう。

さて、富士山という名の由来であるが、都良香が書いた「富士山記」による富士郡の地名からという説や「藤」の花に似たスロープとの説やアイヌ語説（フンチ：火の神）或いはマレー語のフジ（素晴らしい）など諸説紛々として統一見解は未だ確立されていない。

その中でも「不死山説」は、夢とロマンを掻き立ててくれる。

「竹取物語の赫耶姫が、天皇の皇后たるべしとの招請を断り、月の世界に帰っていった。その際に衣服一重ねと不死の薬を形見においていった。娘（姫）のいない世界で生き永えるべくも無しとて、竹取の翁は駿河の高山で燃やしてしまった。それ以後、山頂からは煙が立ち上り山名を不死と呼ぶようになった。」

参考までに遠藤秀男氏の書物から富士山の十種異名を列挙してみよう。

富士山に対する古人の思い入れが偲ばれる筈である。（「富士山」85～86 p）

- 養老山：ここに参詣するものは不老長生を約束されるためである。又、山形に雪をいただく様が老翁の白髪に似るからこう呼ぶのだとも言う。
- 花角山：木花咲耶姫が鎮座することによって、花が千秋に咲き誇る様を言う。
- 行向山：赤心を持って参詣する者には、諸神が行向して迎え、これを加護してくれるところから出た。
- 来集山：諸神仏がこの山に集まるところから言う。
- 妙光山：常に光り輝く意。白雪の輝きをさし、又頂上剣ヶ峰や火口の池が鏡にたとえられるところからその光を言う。又、神化の不測なるを持って妙という。
- 穀聚山：米穀を取り集めこれを積み上げた形に似ているためである。米を手にくいサラサラとこぼすと富士山形になる。
- 仙人山：不老長寿の薬草がある所であり、これを採って長生した仙人が住む所である意。
- 天地和合山：天神地祇がここに鎮座するために言う。天地をつなぐ山の意である。またの名を芝山という。歌に、「天の原富士の芝山しばしばも煙のたえず雪も解けなくに」とある。
- 磐石山：溶岩や磐石を四方に流したことから起こる。（磐若山というに同じ）
- 富士山：コノハナサクヤ姫が、誓願された言葉による。別して男子に富み守護を賜わら

ん、ということで あった。